

JCO臨界事故反響調査

(調査結果の概要)

世論調査・市場調査の専門機関の社団法人 中央調査社（会長 長谷川 和明）は、昨年12月10日から13日にかけて、「JCO臨界事故の反響」に関する全国意識調査を実施しました。調査は、無作為に選んだ全国の20歳以上の2,000人を対象に面接聴取法で行い、1,357人から回答を得ました（回収率67.9%）。主な調査内容は以下の5項目です。

調査内容

- 1) JCO臨界事故の認知状況と事故知った時の感想
- 2) 事故による原子力発電への関心度の高まり
- 3) 事故による原子力発電への安全性・必要性認識の変化
- 4) 重大事故発生の可能性についての認識
- 5) 原子力の平和利用についての考え

主な調査結果

- JCO臨界事故の認知率は98.8%。事故に対する感想は、ほぼ半数の人が「まさかこんな事故が起こるとは思わなかった」と驚く一方、3割弱の人が「いつかはこんな事故が起こると思っていた」と回答。
- 4人中3人が事故をきっかけに原子力発電への関心度が「高まった」と回答。また、原子力発電に対する安全性認識は事故によって26ポイント低下したが、必要性認識にはほとんど変化がなかった。
- 今後このような重大事故が発生することについては、7割以上の人がある可能性を認め、「原子力の平和利用」については1割強の人が「危険なので、中止」、半数近くの人が「危険なので、十分な対策が必要」としている。

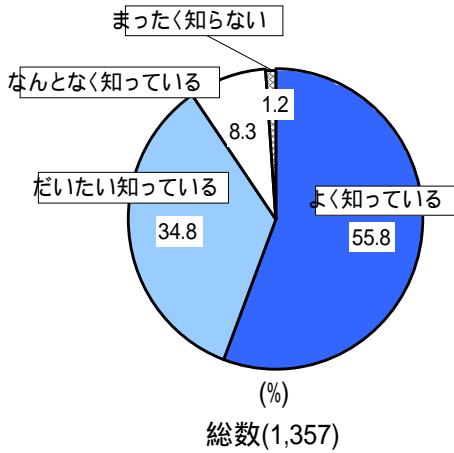
2000年2月

社団法人 中央調査社

CENTRAL RESEARCH SERVICES, INC.

ＪＣＯ臨界事故の認知状況と事故を知った時の感想 　ＪＣＯ臨界事故の認知状況

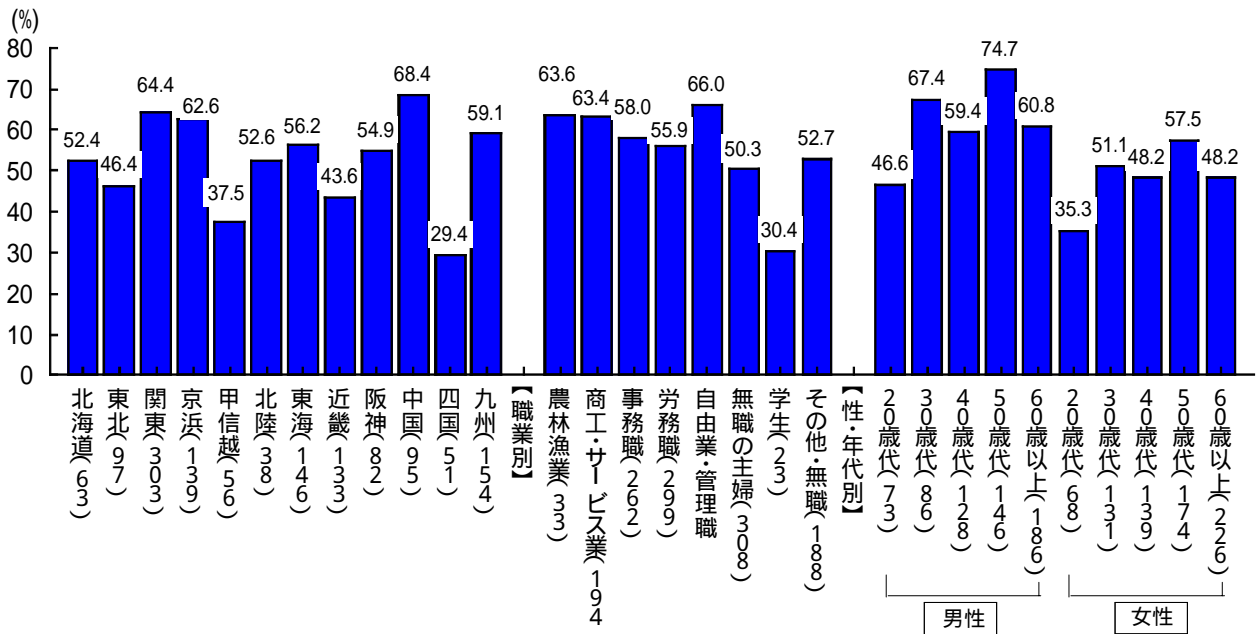
質問：ほぼ3カ月前に、茨城県東海村のウラン燃料を加工しているジェー・シー・オー（ＪＣＯ）という会社の工場で「臨界事故」が発生しましたが、その事故についてご存じですか。この中から1つだけお答えください。



・ 昨年の9月30日にＪＣＯのウラン燃料加工工場で発生した臨界事故の認知状況は、「よく知っている」が55.8%、「だいたい知っている」が34.8%、「なんとなく知っている」が8.3%で、程度の差を別にすれば合計98.9%とほとんど全員が知っている。

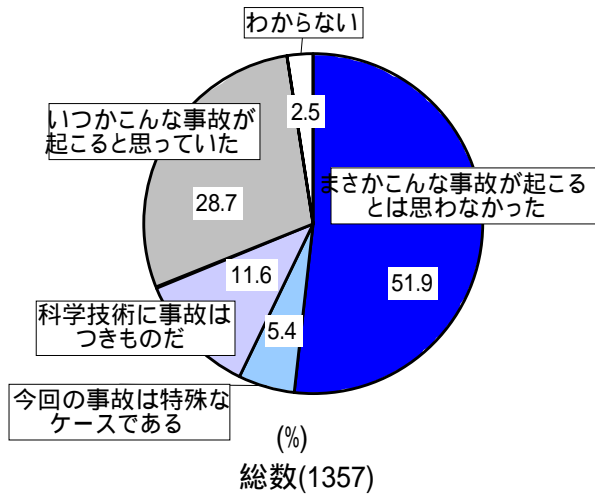
・ 「よく知っている」比率でみると、ブロック別では中国、関東、京浜、職業別では自由業・管理職と農林漁業、商工・サービス業で6割台と高く、性・年代別では男性の50代で74.7%と特に高くなっている。

ブロック別、職業別、性・年代別にみた「よく知っている」比率



事故を知った時の感想

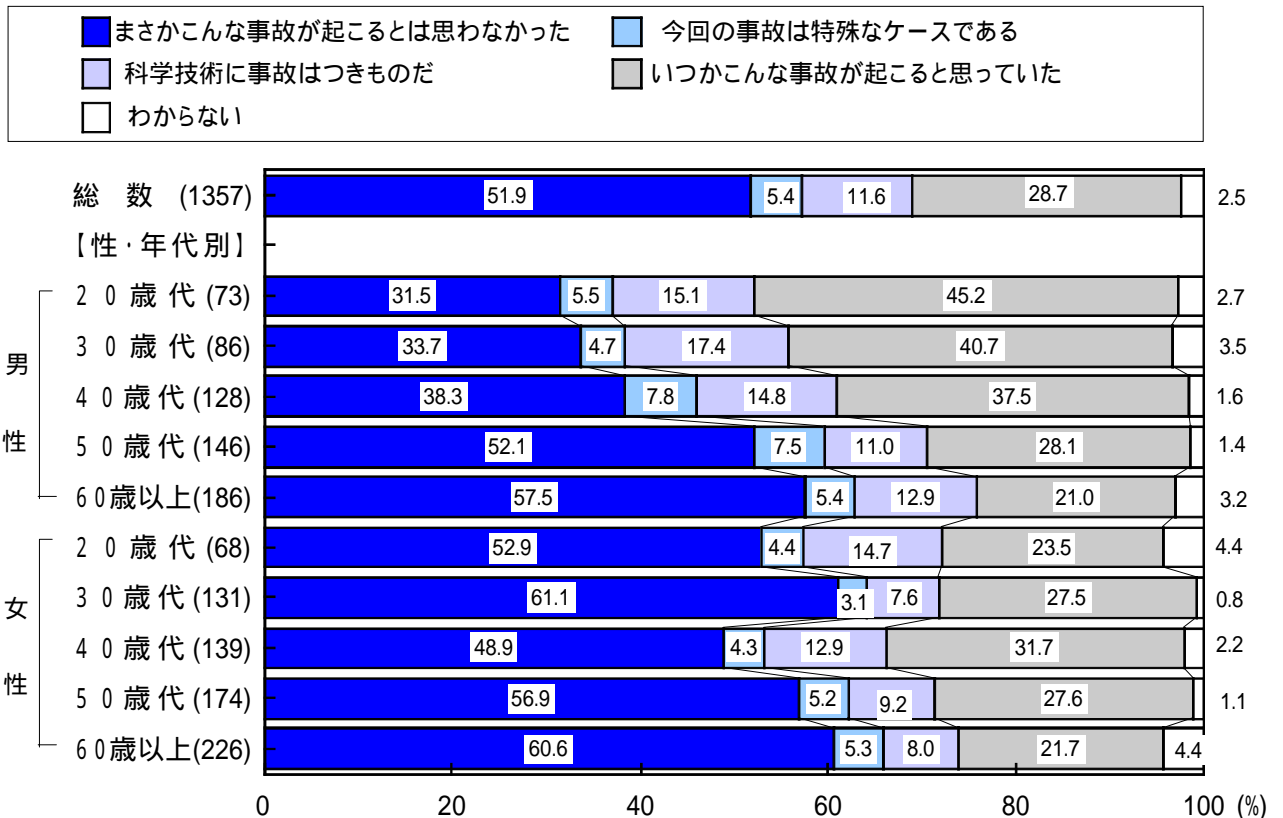
質問：あなたは、今回の事故をお聞きになってどのように感じましたか。この中から1つだけお答えください。



・今回の事故を知った時の感想は、ほぼ半数の人が「まさかこんな事故が起るとは思わなかった」と驚く一方、3割弱の人が「いつかはこんな事故が起ると思っていた」と回答。さらに「科学技術に事故はつきものだ」というさめた見方をする人も1割強みられた。他方、「今回の事故は特殊なケースである」という見方は5.4%と少数であった。

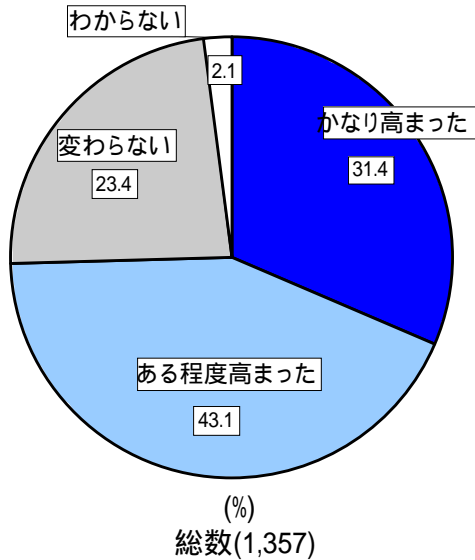
・性・年代別でみると、「まさかこんな事故が起るとは思わなかった」との感想は女性や男性の高年層に多く、反対に「いつかはこんな事故が起ると思っていた」との感想は男性、特に若年層に多い。

性・年代別にみた事故を知った時の感想



2) 事故による原子力発電への関心度の高まり

質問：今回の事故をきっかけとして、原子力発電に対するあなたの関心はかなり高まりましたか、ある程度は高まりましたか、それとも変わりないですか。

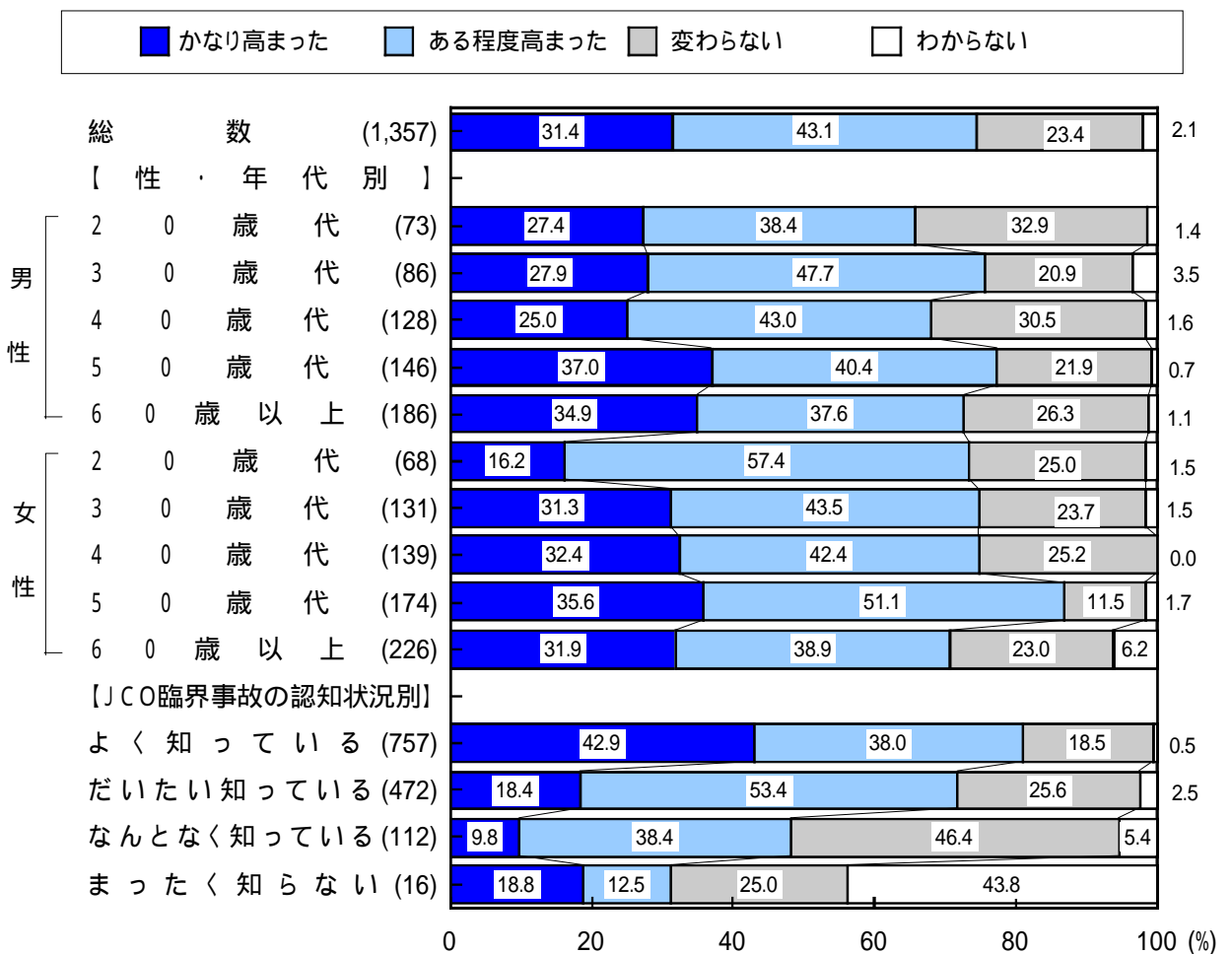


・「かなり高まった」が31.4%、「ある程度高まった」が43.1%で、4人中3人が事故をきっかけに原子力発電への関心度が<高まった>と回答している。

・性・年代別で見ると、関心度が<高まった>のは男女とも50代で特に多く、女性では86.7%に及んでいる。

・JCO臨界事故の認知状況別で見ると、認知度の高い人ほど関心度が高いという相関関係が示されている。

性・年代別、JCO臨界事故の認知状況別

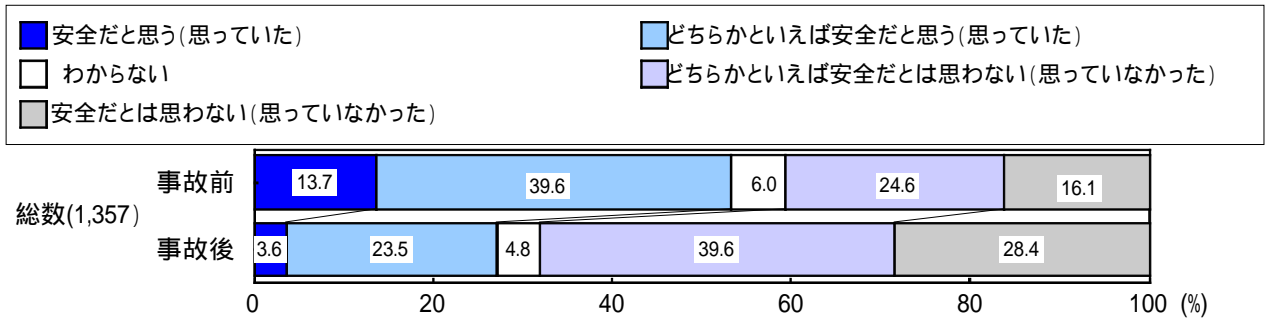


3) 事故による原子力発電への安全性・必要性認識の変化

事故による原子力発電への安全性認識の変化

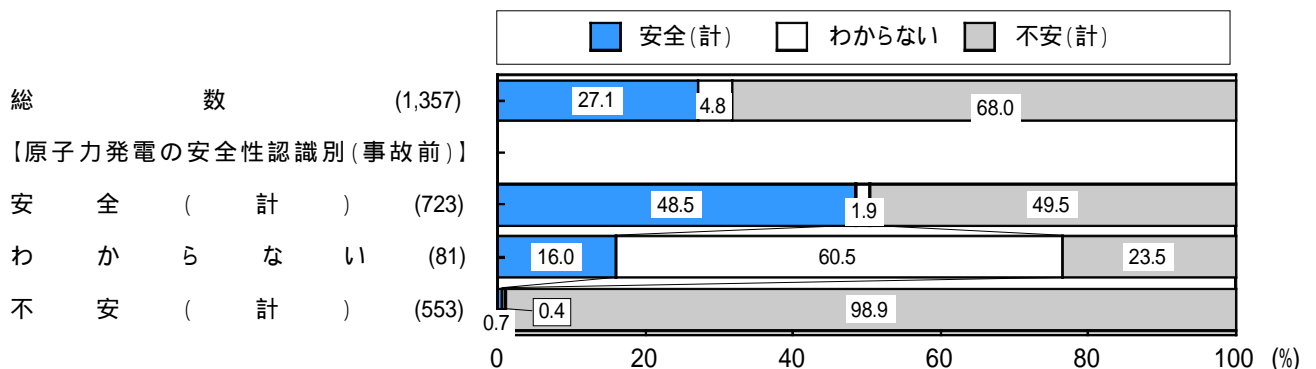
質問：あなたは、原子力発電の安全性について現在どのように考えていますか。この中から1つだけお答えください。（事故後）

質問：では、事故が起きる前はどのように考えていましたか。この中から1つだけお答えください。（事故前）



- ・原子力発電に対する安全性認識は事故によってどう変わったかを調べてみると、事故前は53.3%と半数以上が「安全」と考えていたが、事故後は27.1%に減少し、「安全だとは思わない」が68.0%と7割近くを占めている。
- ・認識の変化の様子をみるために、事故前の認識を表側に、事故後の認識を表頭にとったクロス集計を行ってみると次の図のようになり、事故前に「安全」と考えていた人の半数が「不安（安全だとは思わない）」に変化したことがわかる。

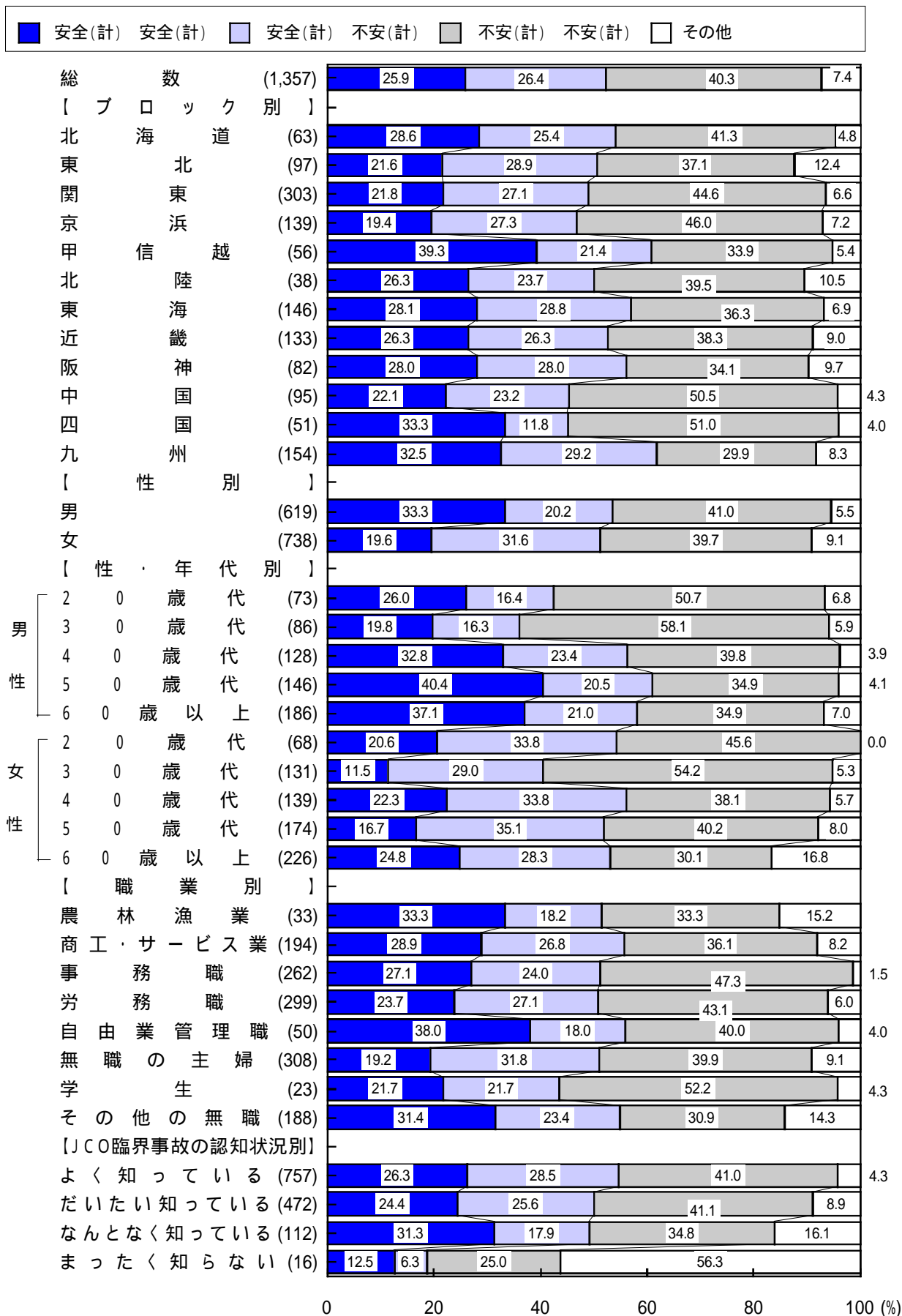
事故前の認識別にみた事故後の認識



- ・また、事故前と事故後の回答を組み合わせ、安全性意識の変化を「安全(計) 安全(計)」「安全(計) 不安(計)」「不安(計) 不安(計)」「その他」と4つのパターンに分けてみると、最も多いのが「不安(計) 不安(計)」で4割、次いで「安全(計) 不安(計)」と「安全(計) 安全(計)」がそれぞれ4分の1を占めている。
- ・今回の事故との関連から、「安全(計) 不安(計)」と変化した人の比率を属性別にみると、ブロック別では九州、東北、東海、阪神などで3割弱、性別では女性で3割強、特に50代の変化が大きい。職業別では無職の主婦で3割を超えている。

・また、事故の認知状況別でみると、「よく知っている」「だいたい知っている」と答えた人の変化が大きいことがわかる。

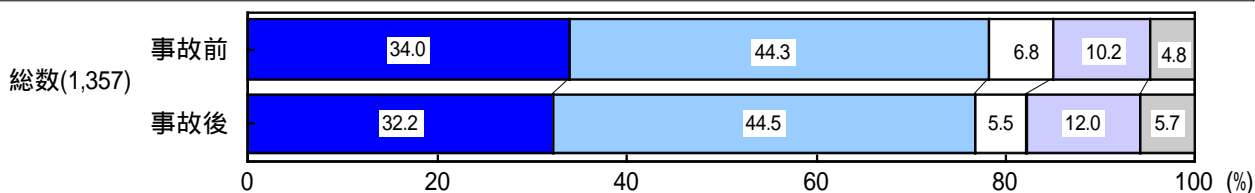
ブロック別、性別、性・年代別、職業別、JCO臨界事故の認知状況別にみた安全性認識の変化



事故による原子力発電への必要性認識の変化

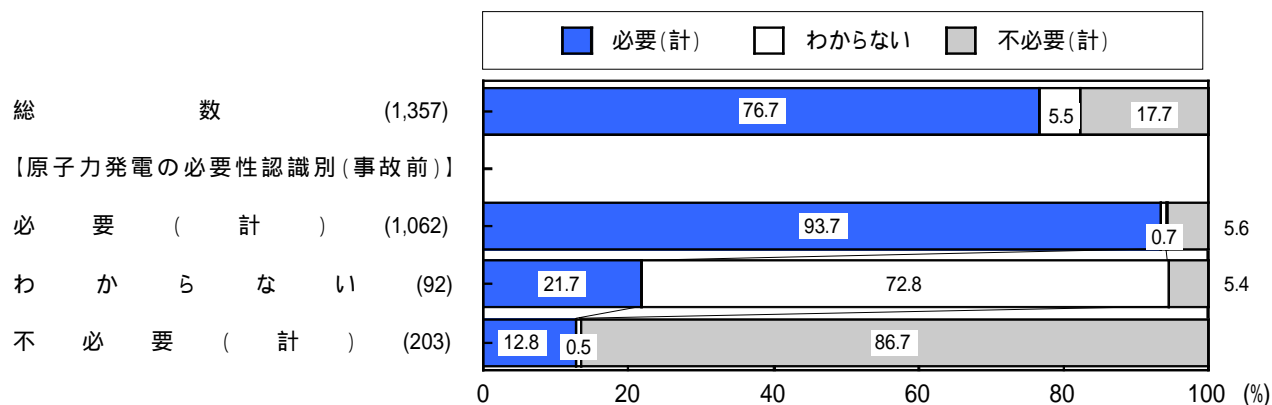
質問：あなたは、原子力発電の必要性について現在どのように考えていますか。この中から1つだけお答えください。（事故後）

質問：では、事故が起きる前はどのように考えていましたか。この中から1つだけお答えください。（事故前）



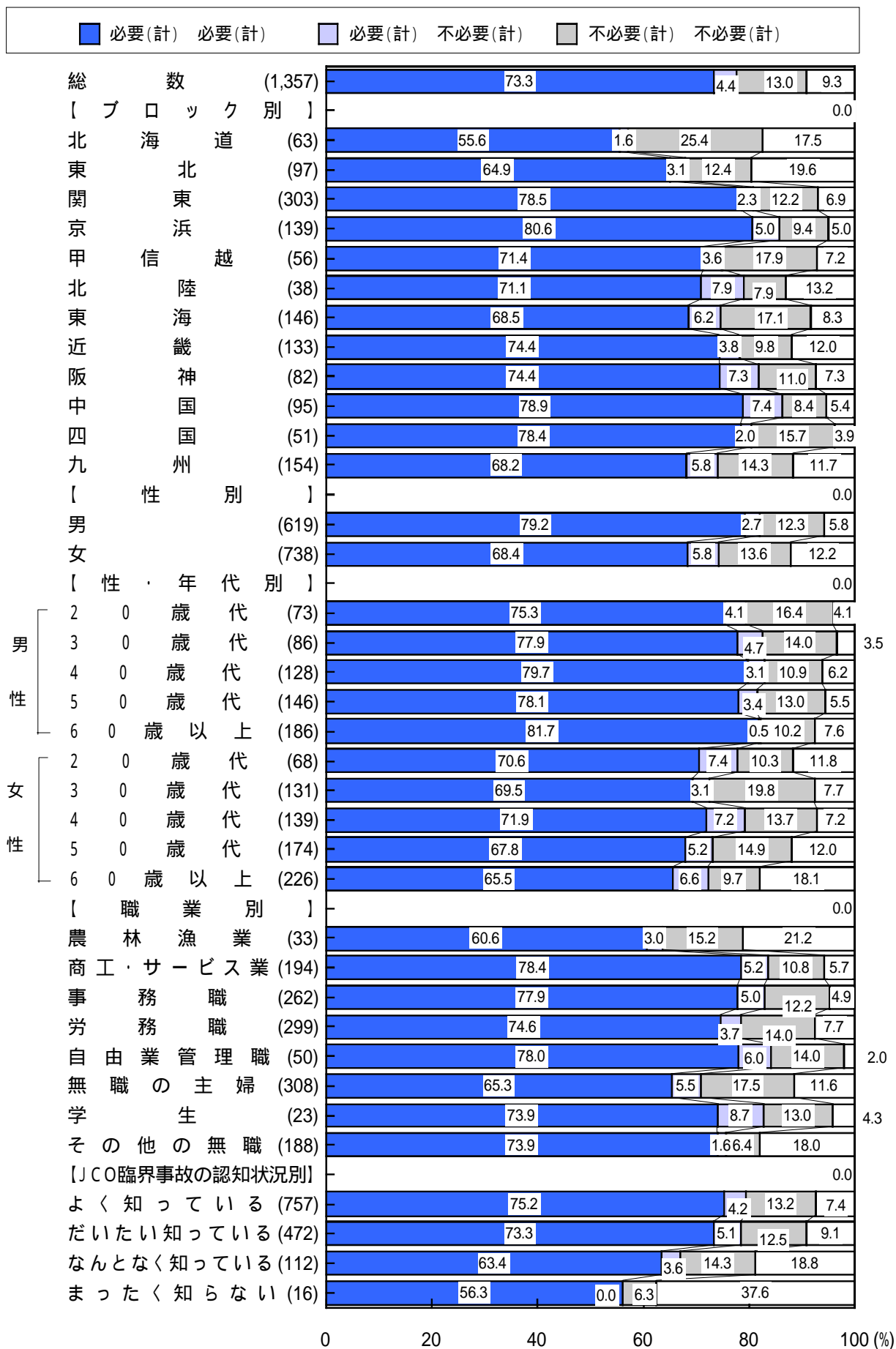
- ・原子力発電に対する必要性認識は事故によってどう変わったかを調べてみると、<必要>と回答した比率は事故前の78.3%に対して、事故後は76.7%とほとんど変化がない。先にみた安全性の場合とは大きな差異があることが示されている。
- ・認識の変化の様子をみるために、事故前の認識を表側に、事故後の認識を表頭にとったクロス集計を行ってみると次の図のようになり、事故前に<必要>と考えていた人の9割以上が同じく<必要>と答え、ほとんど変化がなかったことがわかる。

事故前の認識別にみた事故後の認識



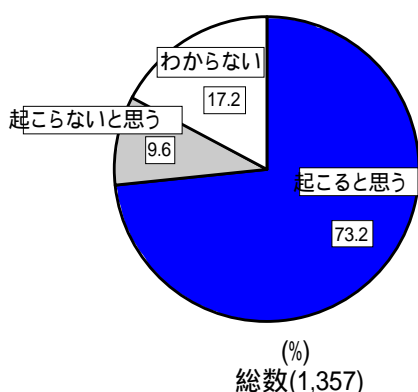
- ・また、事故前と事故後の回答を組み合わせ、必要性意識の変化を<必要(計) 必要(計)><必要(計) 不必要(計)><不必要(計) 不必要(計)><その他>と4つのパターンに分けてみると、最も多いのが<必要(計) 必要(計)>で7割強、次いで<不必要(計) 不必要(計)>で1割強となっており、<必要(計) 不必要(計)>と今回の事故を契機に変化した人は4.4%とごくわずかであった。
- ・<必要(計) 不必要(計)>に変化した人の比率を属性別にみると、ブロック別では北陸、中国、阪神で7%台、性別では女性で5.8%、特に20代と40代の変化が比較的大きい。職業別では無職の主婦で5.5%、学生で8.7%とやや高い。

ブロック別、性別、性・年代別、職業別、JCO臨界事故の認知状況別にみた安全性認識の変化



4) 重大事故発生の可能性についての認識

質問：あなたは、今回のような重大な事故が、また起こると思いますか。それとも起こらないと思いますか。

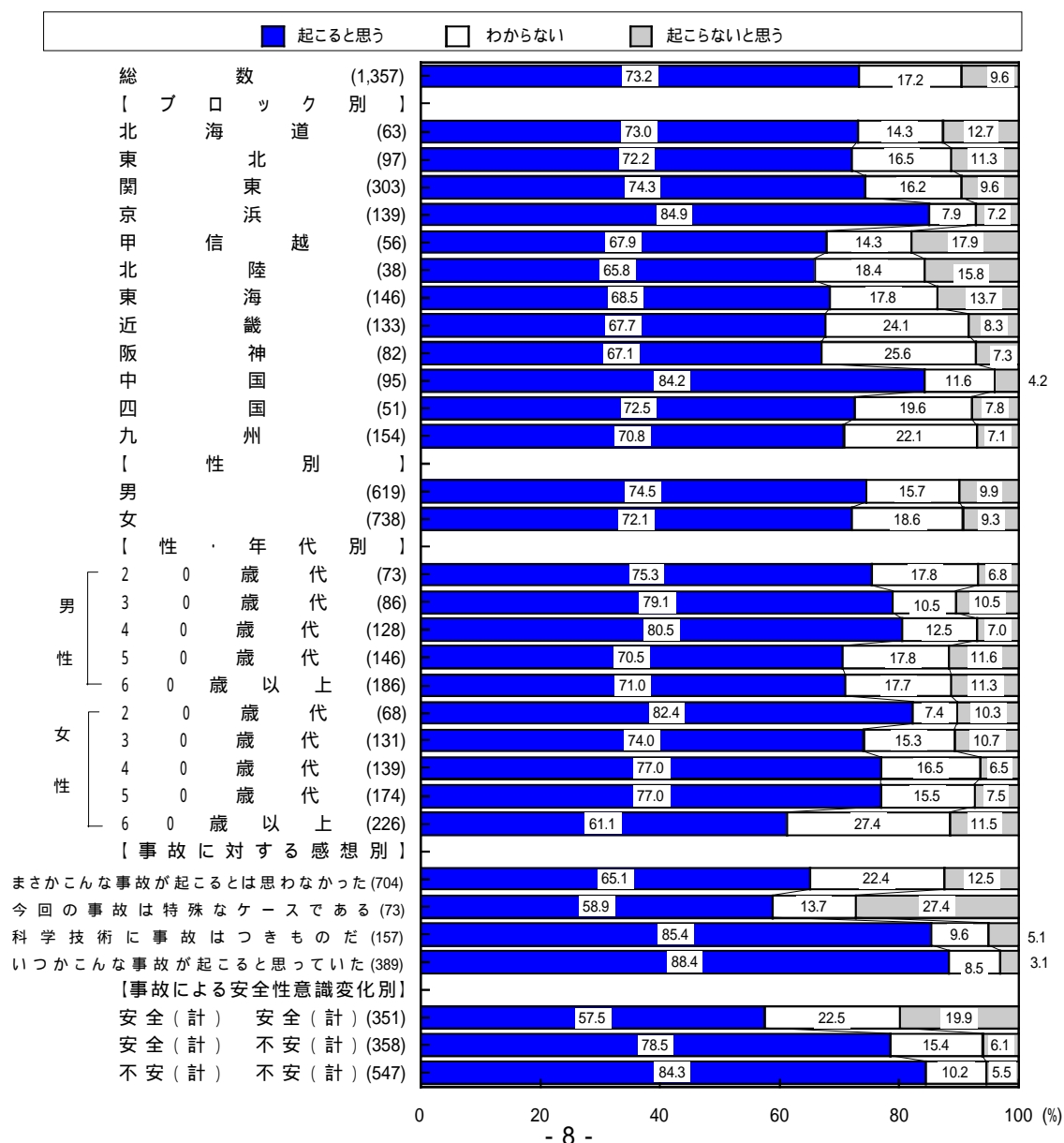


・今後このような重大事故が発生することについては、7割以上の人がその可能性を認め、「起こらないと思う」人は1割と少ない。

・「起こると思う」という比率を属性別にみると、ブロック別では京浜と中国で8割を超え、性・年代別では男性の30～40代と女性の20代で8割前後に達している。

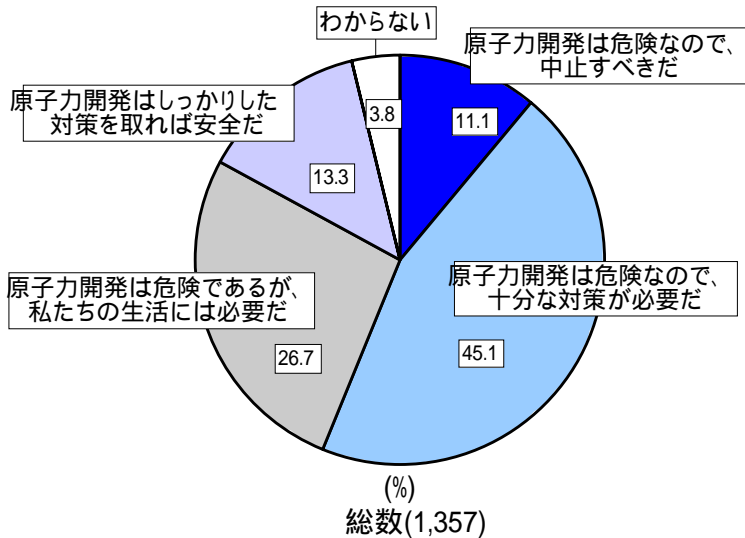
・今回の事故に対する感想別では、「今回の事故は特殊なケース」と考えている人、また、事故による安全性意識の変化別では「安全(計) 安全(計)」と変化がなかった人でもそれぞれ6割近くが「起こると思う」と考えていることがわかった。

ブロック別、性別、性・年代別、職業別、事故に対する感想別、安全性認識の変化別にみた重大事故発生の可能性についての認識



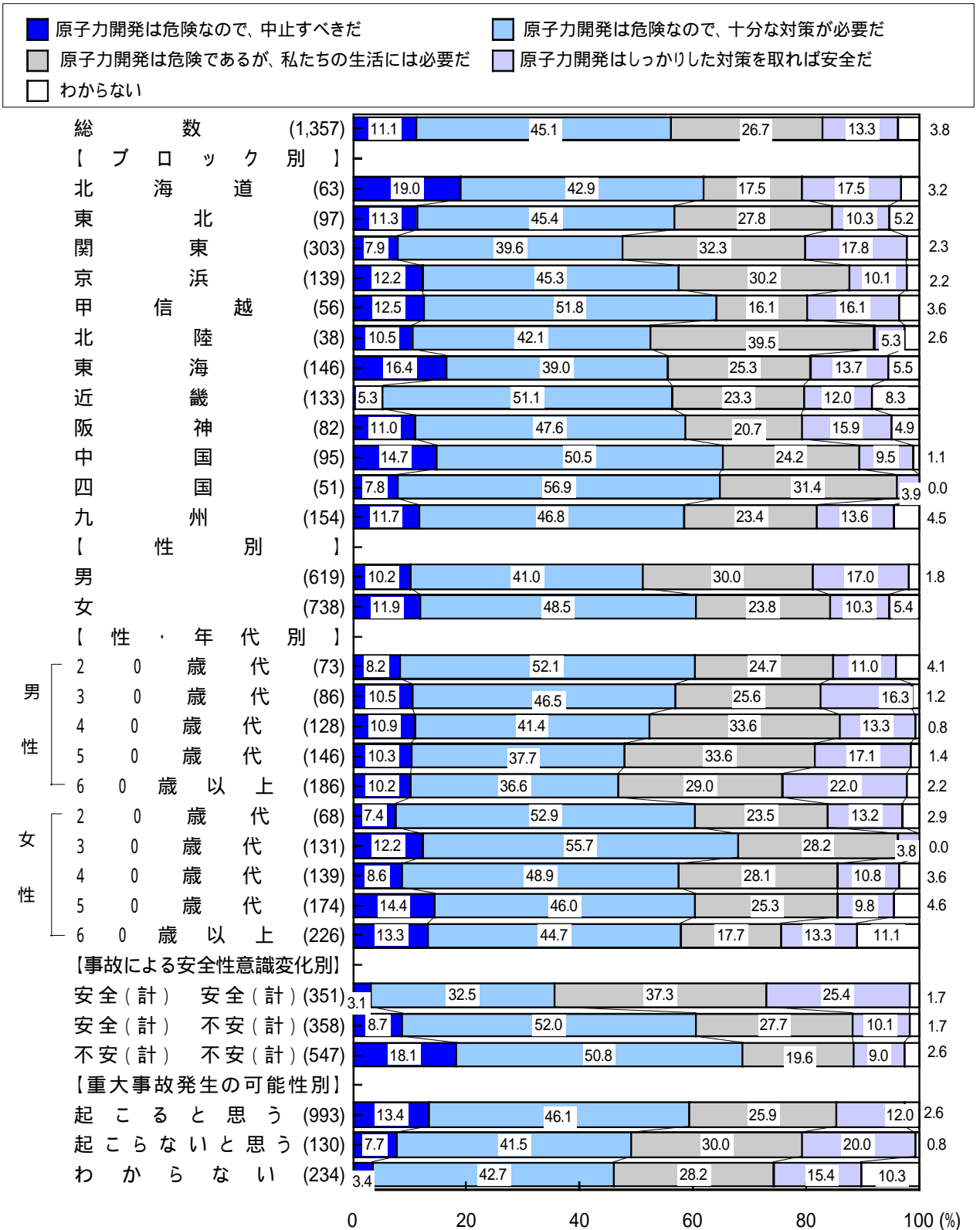
5) 原子力の平和利用についての考え

質問：今回の事故に関連して、あなたは「原子力の平和利用」についてどのように考えていますか。この中から1つだけお答えください。



- ・ 今後、「原子力の平和利用」を進めていくことについて、「原子力開発は危険なので、中止すべきだ」という人は11.1%と少なく、反対の「原子力開発はしっかりした対策を取れば安全だ」という人も13.3%と少ない。比較的多数の支持が集まったのは「原子力開発は危険なので、十分な対策が必要だ」という意見で45.1%、また、「原子力開発は危険であるが、私たちの生活には必要だ」という意見も26.7%と4分の1以上の支持を集めている。これら2つの意見は似通っているが、前者は事故防止対策重視、後者は必要性重視の意味合いが強い。
- ・ 「中止すべきだ」という比率を属性別にみると、ブロック別では北海道と東海で15%を超え、性・年代別では女性の50代で14.4%と比較的高くなっている。また、今回の事故による安全性意識の変化別では「不安(計) 不安(計)」という人で18.1%と高くなっている。
- ・ 「十分な対策が必要だ」という比率は、今回の事故による安全性意識の変化別でみたときに、「安全(計) 安全(計)」では32.5%であるのに対して、「安全(計) 不安(計)」と変化が生じた人と「不安(計) 不安(計)」と以前から不安に思っている人では共に5割強を占め、現在不安に感じている人々の願いが安全対策に重点が置かれていることがわかった。

ブロック別、性別、性・年代別、安全性認識の変化別、重大事故発生の可能性別にみた原子力の平和利用についての考え



(調査の設計・方法など)

- 調査地域 全 国
- 調査対象 満 20 歳以上の男女個人
- 標 本 数 2,000
- 抽出方法 層化二段無作為抽出法
- 調査方法 調査員による個別面接聴取法
- 調査時期 1999 年 12 月 10 日 (金) ~ 12 月 13 日 (月)
- 有効回収数 1,357 (回収率 67.9%)

(属性別回収内訳)

➤ 市郡規模別	回収数	構成比
13 大都市	2 8 3	2 0 . 9 %
その他の市	7 5 0	5 5 . 3 %
町 村	3 2 4	2 3 . 9 %

➤ 性 別	回収数	構成比
男	6 1 9	4 5 . 6 %
女	7 3 8	5 4 . 4 %

➤ 年 齢 別	回収数	構成比
20 歳代	1 4 1	1 0 . 4 %
30 歳代	2 1 7	1 6 . 0 %
40 歳代	2 6 7	1 9 . 7 %
50 歳代	3 2 0	2 3 . 6 %
60 歳以上	4 1 2	3 0 . 4 %

問い合わせ先

〒141-0031 品川区西五反田 7 - 1 - 1 住友五反田ビル 8 階
社団法人 中央調査社 (会 長 長谷川 和明)
T E L 03-5487-2311
F A X 03-5487-2316
ホームページアドレス <http://www.crs.or.jp>

担 当 調 査 部 森 松